GIGAスクール スタート特集

W座談会 2

# 学校現場の 実態と課題

GIGAスクール構想の各学校での受け止め方や、それに伴う機器の導入状態、その機器を授業に活用するためにどのような手立てを講じているかなど、先生方にお伺いしました。

埼玉県 さいたま市立上小小学校 教諭 **根津 雅子** 【2年生担任】



京都 並区立沓掛小学校

**ー杉 大介** 【4年生担任:研究主任】 福島県 須賀川市立白方小学校 教諭 **鹿又 悟** [6年生担任:研究主任]



東京都
千代田区立麹町小学校教諭
市川 麻代美
[6年生担任:研究主任]

創価大学教職大学院教授渡辺秀貴

GIGAスクール構想をどのように受け止めているか

渡辺: GIGAスクール構想がスタートするにあたり、現場の様子や先生方の認識についてお話しください。

一杉: 勤務する杉並区はだいぶ前から5・6年生には一人一台のタブレットがありましたので、高学年の担任経験のある教員は、授業で子どもがそれを主体的に使うイメージをもっていると思います。ただ、低学年や中学年の先生方には、まだそういう認識はなく、"休校になったら朝の会などに活用するのだろうけど、どう活用するの?" という感じだと思います。現在、同じ端末が児童数分、学校に届いていますが"GIGAスクール"という言葉が職員室で交わされることはないですね。

根津: さいたま市の先生方は、GIGAスクール構想のことは理解していると思います。学校長が学校経営方針に載せていたり、さいたま市で毎年出されている『学校教育』という冊子の表紙にも"GIGAスクール構想"という言葉が載っていたりするので、この構想の下でやっていくという認識は教員の中にあると思います。ただ問題点としてはタブレットなのですが、前から使っているものがあり、昨年度、新しい別の端末がきたので、全て(の児童)が同じではないということです。

**鹿又**: 須賀川市は、今年度から3年かけて導入される計画になっています。今年度は全市の小学校4・5・6年生と全中学



▲育てている野菜の観察記録, 生活科で活用

校、来年度には小学校3年 生、2年後には小学校1・ 2年生という形で3年かけ て一人一台配られる計画に なっているようです。

市としても, 一気に導入 するのは先生たちも大変と 分かっているので、徐々にというイメージです。

今年度分で配付された端末は、Google Chromeでした。 アカウントやアドレスを設定する必要がありますが、まだそれさえもできていない状態です。

週に1回、パソコン支援員が企業から派遣されていますが、その支援員がどう支援するのかということはあまり決まっていないです。授業で積極的に使っていけるという状況ではなくてもどかしいですが、パソコン室にも同じようなタブレットはあるので、私ができる範囲で、それを活用しています。

市川:千代田区では、昨年度コロナの休校期間中に、タブレットが家庭にない児童に貸与されました。MicrosoftのSurfaceです。学校のWi-Fi環境も全部調査して(最初の頃はルーターも全部貸与していただき)、整備されて、Microsoft Teamsを入れて、朝の会や授業をオンラインで行いました。

そして、昨年度秋に、全児童に配布された新しいタブレットには、Wi-Fiにもつなげられ、LTE対応もしており、家でもタブレット学習ができるように、何種類ものアプリが入っています。ですので、すぐにも使える環境が整っています。

GIGAスクールという言葉自体を発するというよりは、実



▲付箋機能で出し合った めあてを共有

践して使いながら教員も 慣れていくというように、 子どもと一緒に同時に進 んでいる状況です。こう した環境なので、今年度 の研究もICTで行こうと なりました。

※本座談会は、4月下旬に行われたものです。

# ICT活用現場報告

### ICTの校内組織や校務分掌の位置づけは?

根津:情報主任が主に推進する役割ですが、昨年度は、他 に2人「エバンジェリスト(ICT関連の技術指導者)」と呼 ばれる人が指名されて、GIGAスクール構想やその研修を 進めていく体制でした。特に何かの資格をもっている人では ありませんでした。

鹿又: 私の学校はとても規模が小さいので、ICT教育推進 組織にあたるのは自分です。隣の郡山市などは、iPadを活 用しています。LTE対応もしているのでうまく使っていますが、 家庭に持ち帰らせるという話は聞いていません。同じ東北で も、自治体の状況で全然違います。

市川:研究は研究推進委員が中心になります。去年、タブ レット関係は、全て情報担当がやっていましたが、かなり の仕事量になっていました。 そこで今年は人員を増やし. 情報担当とタブレット担当を分けています。タブレットの操 作や管理のことはタブレット担当がやり、タブレットの機能 や授業の中での活用などを研究推進委員で進めていく感じ です。

動き出したばかりですが、2年計画で、教科では理科と 算数で研究を進めることになっています。

渡辺: なるほど、役割が明確になっているのですね。また、 教科も絞ってタブレットの有効活用について、学びの本質に も迫ろうとされているということですね。

### タブレットを積極的に活用するには?

渡辺: 進め方として、学校にも子どもたちにもポジティブな視 点では、どのようにお考えですか。

**鹿又**: 市の導入が3年計画なので、高学年が最初に学んで、 それを下の学年に引き継ぐという形になり、 プラスの面もある と思います。先生から教わるのではなくて、子どもがつながり ながら学べる環境をつくっていけば、子どもたちが主体になっ ていくことができると思います。また、先生全員ができるよう になるためには、できる先生がまず動かして、とにかく触りな がら一緒にやってくことが大事だと思うので、まずは担当の私 が率先してやることも大事だと感じているところです。

ー杉: PCの機能やアプリの使い方などのOITや校内研修と セットで、"それができたらどのように授業が変わるのか"が 語られないと、教科(授業)の中にICTを使ってみたいという 気持ちが起きないのではないかと思っています。僕は、タブレッ ト機種や機能の説明を受けただけのときは、全く記憶に残り ませんでした。ただ、授業で使いたくて、堪能な先生に効果 的なタブレットの活用法を質問して教わったときは、納得を 伴って機能などをすぐ覚えました。ですから、機能と授業の 魅力をセットにして、両方同時進行でいくとよいと思います。 僕はICTは詳しくないですが研究主任なので、タブレット活用 も、授業という側面から魅力をアピールできたらと思っています。

\_\_\_\_\_\_\_\_\_

進んでいる地域や

学校の情報を

根津:一人一台であることを考えると. しっかり授業に活用 しないといけないと思っています。タブレットを使った授業 がどういうものなのか、タブレットを使うと子どもたちがど のように変容していけるのかが分かると、先生たちは使って いけると思います。タブレット活用の課題とも関わりますが、 子どもたちはどんどんできても、操作が難しいと教員側が 置いてかれていく部分もあると思うので、教えるというより 一緒にやっていくということが大事だと思いました。

市川: 実際に使い始めのころは、紙ベースでやっていたこと をタブレットに変えただけではあまり意味がないと思ってい ました。タブレットだからこその良さとか、ICT機器を使う からこそできることを追究しようと、凝り固まった感じで始 めていたのです。ところが、先日、研究全体会の講師に、"そ んなかしこまらなくても、まずはちょっとやってみることが 大事じゃないか" "子どもたちがノートに書くぐらい自然に活 用できるものになっていけばいいじゃないか"とお話いただ きました。それで私たちの中でも、理想を掲げるばかりでな く、まずはどんどん使ってみようという意識に変わってきま した。

結局、今使ってみて感じる課題は、教員側が操作で終わっ てしまったり、 苦手な子と関わっている間に授業時間が過ぎ てしまったりして、その時間に押さえておきたかったことま でたどりつかないことがあったので、まずは教員が慣れて 自然に使えるようにすることが大切だと思っています。



▲子どもに質問される先生

# 効果的だった活用事例をご紹介!!

渡辺: タブレットを使った授業で、効果的だった例があれば 教えてください。

**鹿又**:総合的な学習で、映像を撮って外国に送るビデオレター づくり活動をやりました。一人一台ではないのですが、協働し て映像を作る中でトライ&エラーを重ねるという活用がうまく できたと思っています。

また、6年生の社会科の「世界の国々とのつながり(アメリ カ合衆国)」の学習で、外国の生の映像や声を届けたいと思い、 アメリカに住んでいる同僚の学校とZoomをつなげて、話を聞 くという学習をしました。Zoomのブレイクアウトルームの機能 でグループに分かれて交流しました。コミュニケーションが活 発になり、よい学びになったと感じました。

渡辺:海外に限らず、国内でも離島と都心部など、いろいろ な交流が考えられますね。相手意識をもち、同じ学年で違う

学校の友達とシチュ エーションが作れま す。そういったツー ルとして意欲が高ま るような例になるか もしれませんね。



\_\_\_\_\_\_\_

▲ビデオレターを作成している様子



▲アメリカの学校と交流している様子

# GIGAスクール構想の推進校の事例(千代田区立麹町小学校)

市川:本校の研究主題は「みんなでつくる「"わくふむ" | 授業 | です。わくわく、ふむふむできる授業という学び合いの授業で す。副主題は「つながる・ひろがる・ICT」で、学び合いの場 面が活発になりにくい現状があったので、ICTをうまく活用し ながら、話し合いや思考の場面で、いろいろつなげて深めてい きたいということで設定しました。

渡辺: ツールがうまく使える環境が整っているだけでなく、少 し踏み込んで、それを授業ベースでどうやって使っていけばワ クワクして主体的に学んでいき、また他者との対話的な活動を 通して学びを深められるような授業のあり方を探っていく研究 段階にあるということですね。



「みんなでつくる "わくふむ"授業」の 研修会



# タブレット活用、教師にも必要なのは、"トライ&エラー

渡辺: タブレットについて先進的に取り組んでいる方々が異 口同音に言っているのは,

- ▶文房具が増えたというぐらいの捉え方で使っていかないと、 いつのまにかやりにくくなる。
- ▶その可能性は未知数なので、現場の先生方がトライ&エ ラーで "こんな場面でこんな使い方をしたら子どもの学び は変わった"というものをこれから見つけていく。

ICT機器の活用に関しては、子どもたちだけでなく、教師 もこうした作業を積み重ねていくしかないということなので すね。



個々に作業する内容を 意思決定して 取り組んでいる様子

何はともあれやって

みて、間違ったら



教員が研究協議会で 子どもに活用させる ソフトを用いて協議 している様子

20

# ICT活用現場報告

### 【続】効果的だった活用事例をご紹介!!

一杉:民間企業が開催している「クエストカップ」という。自分史を語るオンライン発表会イベントがあるのですが、それを参考にして、6年生で卒業間近に、スピーチ大会のような発表会をしてみました。まずYouTubeで、自分を内省しながら語るクエストカップの映像を子どもたちに見せ、"こういう取り組みがあるんだけど、卒業前の最後の機会にみんなもやってみないか"と提案しました。

実際にやってみると、例えば、子どもたちは自分の弱点を 思い出し、"これまでクラスのみんなに支えてもらえました"と スライド写真を出しながら語ったり、"将来はこんな仕事をした いと思っています"と、その仕事の写真見せて語ったりして、 一生懸命に伝えようという意欲も上がり、聞いている方も涙ぐ むような場が生み出せました。

スピーチは画像がなくてもできますが、教師が思い出の写真を集めるフォルダーなどのツールを用意するだけで、子どもたちはそれを活用していました。こうした取り組みは、発信することのモチベーション向上や効果的なプレゼンという点ですごく役に立つと感じました。

根津:体育で、タブレットで撮影すれば、子どもたちが今、"自分がどういう動きをしているかを把握し、ここをもう少しこのようにするとよい"と分かるのがよいと思います。ただ、タブレットがカメラ機能で終わらないで、さらに先にいけるとよいと思います。例えば、NHKforSchoolのような見本と重ねてみたら分かる機能があるとよいと思います。自分と本物の違

いが分かるだけで なく、どこを直し たらよいのかまで 分かるようになれ ばうれしいです。



▶【P.13-16参照】 <sup>▲反)</sup>

渡辺:子どもたちの演技を動画で撮っておけば、跳び箱などで、最初の段階・中盤・最後の段階と、自分の努力の形が映像で確認できるので、感動の度合いが違って、意欲的になるかもしれないですね。そうしたポートフォリオ的な扱いができる可能性も広がります。

市川:子どものタブレットには SKY menu CLASS という, 動画比較ができる機能があるので、体育で走り幅跳びの1 回目と最後の方で跳んだ動画を比較しているクラスもあり、 その使い方はすごくよいと思いました。

また、5年生の算数で帯グラフ・円グラフを学習しますが、 エクセルを使って数値を入れ、帯グラフなどを作らせていま した。クラスによって差があるので、やはり習熟度別で余 裕のあるクラスでそうしたことを行っています。

低学年の授業や社会の授業の中で子どもたちが発表する 機会には、パワーポイントで資料を作っています。これまで は新聞にしてまとめていたのが、パソコンで簡単にできます。

まだあります。大規模校で、児童集会を一箇所で行うことが難しいので、集会委員がパワーポイントで作ったクイズなどを、Teamsで画面共有して流すなど、積極的に使っています。その「Teams」の機能で、一つのファイルにみん

なが同時にアクセスできる ファイルの共有機能を使い, 漢字の学習で"部首にさん ずいがつく漢字"などを班 ごとに競争させながら書き 出したり、「めあて決め」の



ときに、自分の意見を打ち込みながらみんなで共有したりする ということもやっています。

昨年から活用していておすすめなのは、「コラボノート」というアプリです。調べたことを付箋で書いたり感想を書き込んだりしてグループや全体で共有できるので、とてもよいです。

一杉: 研究主任だったので、研究推進便りに、「社会が得意ではないAさんは教科書を見ながらまとめています。塾で先行学習しているBさんは、インターネットで調べています。タブレットを使うと、このように自分の興味関心やレベルに合わせて授業ができます」といった紹介をしました。また、「タブレットを使った調べ学習の授業をするときのコツは、参考となるホームページのリストをあらかじめ作っておくことです」といっ



たことも発信しました。こう したことを他の教科でも自主 的に発信していけるような文 化を作っていくと,可能性が 広がっていくのではないかと 感じています。

やはり子どもの学びの変容 やその場面を捉えて、校内で 広めていくのがよいと思いま す。

### これからのGIGAスクール・ICT活用に向けて

一杉:ICT化が進むと、逆に若い先生の活躍の場が増えていくのだと思います。私も実際、3年目の若い先生に聞くことも多いです。そうやって、主任の立場の人が、若者に活躍の場を増やしていくチャンスでもあると考えています。

市川: ICTを活用することが必要不可欠な状況なので、慣れるために教員間で一緒にやったり、子どもが慣れれば子ども自身でできることが増えるので、単元によっては交換授業をして、できる人がそのクラスに入ったりしています。そういう試みをした学年はありました。

**鹿又**:主任の立場からすると、最低限教師全員に身につけてもらいたい知識があります。例えば、簡単な立ち上げとか、パワーポイントなどのソフトは通常に使えるようになってもらうということです。プラスアルファのものは、できる人がその学年で使って、そして子どもが使えるようになり、先生と子どもが並行して進めていくような関係づくりが大事だと思います。

渡辺:これからの教育の在り方や教材は、"どんな力をこれからの子どもたちに身につけさせるべきなのか"を検討していく過渡期にあります。特に、これからの教育界を背負って立つ若い人たちは、研ぎ澄まされた感性を常に磨いて、いろんな方とディスカッションして、本当に最先端の思考が働くように、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

一人一台のタブレットという 新しい環境を、教師が気張ることなく、 子どもたちと一緒に使いながら、 子どもたちの学びや成長に 生かしていくことが大切です。



▲研究推進便り

### クロスカリキュラムの考え方で、こんな活用ができるのでは?!

渡辺: 小学校4年生で、体育の幅跳びと算数の折れ線グラフの学習をコラボさせ、幅跳びで跳んだ距離を、次の算数の時間には折れ線グラフで表していく。その折れ線グラフを見て次の目標を立てる。その目標を立てるときは、体育の時間に改善するべきポイントをグループで話し合う、そんな活動をしていた事例がありました。

算数の時間に、子どもたちが"踏み切りは、もっと足を強く蹴った方がいいよ"とか"助走を少し長くした方がいいよ"といった助言をグラフの周りに書き込むのです。次の体育の時間で、その助言を受けてやってみて、結果をまたグラフに描くと、前は一回一回凹凸が激しかったのに、だんだん安定して右肩上がりになってく傾向が顕著に現れてきました。

そういう学びにICT活用はよいですね。数字を打ち込んだら自分が跳んだ今日の記録がグラフに表されていくというのは活用できる機能ですね。



### こんなコンテンツやアプリが、あったらいいな!

**鹿又**:体育や音楽,図工などの技能教科には,指導に使える動画がほしいです。福島県は図工も担任が指導しなければならないので,そこでのプロの指導方法が知りたいし,それだけでなく,子どもが直接見て具体的に分かるとよいと思います。個人差ができる教科に関しては,より一層ICTは必要になると感じています。一杉:「子どものトラブルあるある解決集」があるといいです。教師は学びの質的なサポートをしたいのに,現状ではスキル部分のサポートに追われています。そんなとき,教師を頼らなくても,子どもたちが疑問を検索したら動画で解説してくれるアプリがあると,教師は本質的な方のサポートにあたれると思います。

根津: 理科などの授業の単元ごとのリンク集のような

楽をするためでなく, 渡辺's ポイント 力をつけさせる ために!

ものがほしいと先生

方から聞いています。やはり、使えるもののポイントは、操作が簡単にできるということだと思います。いちばんあったら嬉しいのは、タブレットを使うことにより、そのまま成績処理につながるものです。

市川: やはり操作に気を取られてしまうと、メインの活動の時間が短くなってしまうので、教師が簡単に操作でき、低学年の児童でも使えるアプリやコンテンツが嬉しいです。それから、図書の貸し出しなどバーコードで"ピッ"と処理できるような仕組みは子どもも喜ぶので、提出物などをQRコードで読み取ると、その子どもが提出したことが記録されるようなシステムなどがあれば嬉しいと思います。

22 23